慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	手水鉢の關東下向
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.2 (1923. 2) ,p.68(228)- 68(228)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0068

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

手水鉢の關東下向

東海道線山科驛の北六七町の丘に毘沙門堂といふ門跡寺があるもと出雲寺と稱したが、後に毘沙門天を安置するので毘沙門堂といふ。自分は昨秋同堂を訪れた序に其の庭を拜見したが、よく整つた庭である。そこに六尺と四尺高さ三尺位の花崗岩（？）を鉢形に刳抜いた大手水鉢があり、苦むして如何にも由緒のあるもの丶樣に思はれたので、寺僧に其れを質したる所、仲々の由緒つきのものである。即ち天和二年に同門跡の門主として御坐りになられた公辨法親王（後西院天皇の皇子）の御好の品で、其の親王は六度關東御下向遊ばされたが、其の都度この手水鉢を雲助に擔がせて御下向になつたと云ふ事である。當時に於ける同堂は輪王寺門跡の兼帶で非常な勢力であつたからして、この手水鉢の下向の事も傳へばかりではなく、恐らく事實であつたであらうと思ふ。德川時代の有名な御茶壺の關東下向と共に嘸かし街道を驚かしたもであらう。（武田勝藏）